

気仙沼みなと祭りの観光客を増やすことはできるのか

312 班 千葉凌我 高橋朋花 米倉果林 村上結佳 千葉陸斗

気仙沼の今の状況を知り、他の地域と比べ、課題を探した。また、港祭りを参加型にすることや、新しいイベントやフェスのようなたくさんの人が楽しめる気仙沼みなと祭りにできるように考え研究した。

1 序論

私たちは気仙沼みなと祭りの観光客を増やすことができると考え、この課題に決定した。課題の背景としては、みなと祭りをきっかけに気仙沼の魅力を知ってもらい、観光客のリピーターを増やしたいと思った。

2 本論

観光客のリピーターが増えることで、気仙沼が活性化し、今よりもさらに魅力ある市になると考えた。そこで私たちはターゲットを明確にすれば観光客を増やすことは可能だと考えた。そこでターゲットを若者に絞り込んでみた。若者にはパワーがある。時間をかけないし、お金もかけないが、遠い場所にも足を運んでくれる。

みなと祭りは2日間開催され、1日目にはまらいんや踊りが行われる。「はまらいんや」は気仙沼の方言で「一緒に踊りませんか」という呼びかけの意味の言葉になっていて、各団体が工夫して考えたオリジナルの振り付けを披露するものだ。2日目には打ちばやし大共演や海上うんずらが行われる。どちらも太鼓の演奏だが、海上うんずらには「海を連ねる」という意味があり、壮大な船の上での演奏となる。そして最後には気仙沼湾で約2400発の花火が打ち上げられ、みなと祭りが締めくくられる。



写真1 2016年みなとまつり

みなと祭りの課題点について

1. 観光客が少ないこと
2. 昼などに時間にイベントがないこと
3. 地元の人しか楽しんでいないこと

この3つが挙げられる。1に関しては、平成23年度の観光客込人数を栗原市と比較してみると、気仙沼市の方が約48万人も観光客が少ないということがわかった。

表1 観光客込人数

地区	平成23年
気仙沼	292,012
栗原	770,292

このことから、観光客を増やすためには2と3の課題を解消することで解決できると仮定した。そこで私たちは、2の解決法として昼間には水上アスレチック夜には音楽フェスを催すのはいかがでしょうかと考えた。

昼間の『水上アスレチック』は若い世代の人たちは海水浴やスパリゾートなど水のレジャーが好きな方が多いので気仙沼湾を生かした水上アスレチックをみなと祭りで行うことで観光客へアピールできると考えた。水上アスレチックは、ただ行うだけではなくカップルの部、仮装の部を設けて大会化して観光客をさらに呼び込むこともできると思った。



写真2 水上アスレチック

夜の『フェス』は若い世代の人はフェスのような盛り上がるイベントが好きなので大島で音楽フェスなどを行いみなと祭りをアピールしようと考えた。平成30年度の完成が予定されている大島架橋で交通のアクセスも良くなり観光客を増やすことができると思った。宿泊場所の問題について若者はテントでもよいと考えた。



写真3 フェスイメージ図

3の解決策としてはまらいんや踊りを参加型にすることで観光客を呼び込もうと考えた。衣装や小道具などはレンタルして年代別に参加を募ることで観光客が盛り上がりやすくなる

と考え、このようなイベントで出会いのきっかけも作ることができ移住の機会も作れると考えた。



写真4 はまらいんや踊り

3 結論

現在、気仙沼の少子高齢化、人口減少は深刻化している。それに加え、震災の影響により、交通、インフラの整備、スペースの確保がまだ十分でなく、私たちにはどうしようもないことだが、今ある資源を有効活用できるように考え、研究を進めた。現代は進んでいるので、昔からの伝統のものや、地元の人だけでやる祭りではなく、今の時代のもを取り入れた『新しい伝統』を創っていくことが気仙沼が進化する一歩だと、この研究を通して私たちは思った。

4 課題

今回は若者にターゲットを絞ったため、他の世代を観光客として呼ぶことについては調べることができなかった。そのため、今後は若者だけではなく高齢者などの観光客を増やすことも視野に入れて研究していきたいと思う。

5 参考文献・研究協力

- 1) 宮城県商工観光部観光課 観光統計概要
 - 2) <http://www.ieyenews.com/wordpress/inews-briefs-community-events-10/inews-b-reduit-beach-rodney-bay>
 - 3) <http://www.officiallyjd.com>
- ・気仙沼市役所 観光課
 - ・東北工業大学 猿渡学教授